

# 免許返納「田舎は困る」

バス1時間1本 友とも疎遠に

## 交通弱者 地域で支えて

高齢者による運転免許の自主返納が県内で進んでいる。交通事故防止に一定の効果も期待されるものの、交通の便の悪い地域でマイカーは生活に欠かせない。識者は、行政や交通事業者だけでなく社会全体で交通弱者を支える必要性を指摘する。

### 【一面参照】

「両親は免許を返納して、めっきり老け込んだ」。菊池市の男性(55)がつぶやいた。両親は天草市在住。父親(88)は6年前、免許を返納した。事故を心配しての決断だった。

天草地方に鉄道はなく、路線バスも1時間に1本程度。父親は外出がおっくうになると友人とも疎遠になり、家に引きこもりがちになった。男性は「田舎は車と生活が直結している。公共交通網の整備や支援を拡充してほしい」と訴える。運転免許返納者への支援制度は増えている。

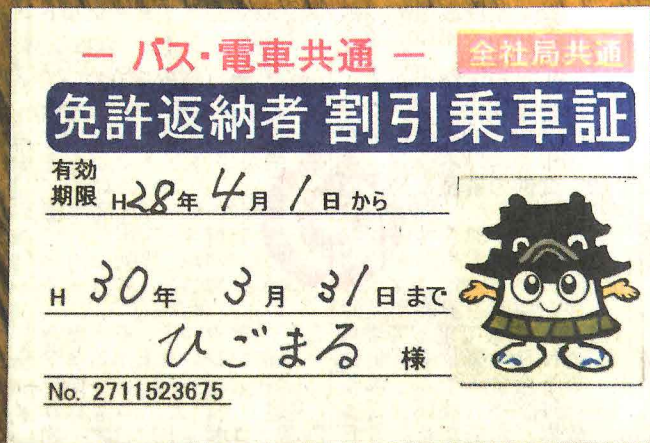
る。

九州産交バスや熊本電鉄など県内六つの交通事業者は、65歳以上の返納者を対象に運賃を半額にする割引制度を2011年に始めた。八代市や人吉市、南関町などの自治体は乗り合いタクシーを運行。無料券を配布したり、運賃を補助したりする自治体も増えつつある。

タクシーには返納者の運賃を1割引きする会社も登場。その一方で業界内には、これまでに頻繁に利用してもらった得意客との不公平感を気にする声が強まっている。負担増を避け、導入に二の足を踏む会社もある。

県警によると、県内で免許を持つ65歳以上の高齢者は約30万人。崇城大の天本徳浩准教

(九重陽平)



県内の路線バス・電車の運賃が半額になる「免許返納者割引乗車証」。65歳以上の運転免許返納者が利用できる。